

シラバス

教 科	科 目	単位数	学 年	コ ー ス	組
保 健 体 育	保 健	1	1	全	1～10組

教科書	大修館 『新高等保健体育』	副教材	

科目の目標	健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を生徒が体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に
	思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとしており、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を
	培う上で中心的な役割を担う。

科目の概要	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善
	していく資質や能力を習得する。

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」	②「課題対応力」 ③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑥「受信・発信力」	⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」 ⑩「自己実現力」
観 点 の 評 価	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付ける。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目標や状況に応じて他者に伝えることができる。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれ支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうする態度を養う。
評 価 の 方 法	・定期試験 ・小テスト	・定期試験 ・小テスト	・平常点（授業態度） ・提出物
定期試験（3回）、ノート点、出欠状況、学習に取り組む姿勢や態度等を総合的に判断して評価する。			

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 (単 元)	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	第1章 現代社会と健康 1. 日本における健康課題の変遷 2. 健康の考え方と成り立ち 3. ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 4. 健康に関わる意思決定・行動選択 【1学期 中間試験】 実施しない	健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴い変わってきていることを理解する。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりに関わることを理解する。また、一人一人が健康に関心を持ち、健康に関する適切な環境づくりに関わっていくことが必要であることを理解する。
	第1章 現代社会と健康 5. 現代における感染症の問題 6. 感染症の予防 7. 性感染症・エイズとその予防 【1学期 期末試験】 7月1日～5日	感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられ、予防には個人的及び社会的な対策を行う必要があることを理解する。
2 学 期	第1章 現代社会と健康 8. 生活習慣病の予防と回復 9. 身体活動・運動と健康 10. 食事と健康 11. 休養・睡眠と健康 12. がんの予防と回復 【2学期 中間試験】 実施しない	健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や、疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であり、食育の観点を踏まえつつ健康的な生活習慣の形成が必要であることを理解する。
	第1章 現代社会と健康 13. 喫煙と健康 14. 飲酒と健康 15. 薬物乱用と健康 16. 精神疾患の特徴 17. 精神疾患への対応 【2学期 期末試験】 12月2日～6日	喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因となり、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることを理解する。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解する。精神疾患の予防と回復には運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があることを理解する。また、心身の不調に気付くことが重要であり、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解する。
3 学 期	第2章 安全な社会生活 1. 事故の現状と発生要因 2. 交通事故防止の取り組み 3. 安全な社会の形成 4. 応急手当の意義と救急医療体制 5. 心肺蘇生法 6. 日常的な応急手当 【3学期 学年末試験】 3月4日～8日	交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が必要であり、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解する。適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減でき正しい手順や方法があることを理解する。心肺蘇生等の応急手当は速やかに行う必要があることを理解する。